



宇都宮市の「悠久の丘」で調査する委員

の高齢化社会や環境問題に対応するため、稼働能力が高く、旧型炉よりも環境問題にも対応する新型炉を採用した。火葬場周辺は木立で覆われ住民から見えないように工夫されており、周辺住民に配慮し看板類もなかった。

隣接する式場は2室、式場控室や通夜控室が完備され最後のお別れとしてふさわしい斎場である。この施設は一日に最大42件まで受け取ることができるよう10年後を予測して造られている。

岩沼市でも、将来を見据えての新しい火葬場を早急に建設されることが望ましいと考える。周辺地域から同意を得ることは必然である。

り、素晴らしい施設が完成されるべきと考える。

建設産経常任委員会

兵庫県西宮市「5月20日」

▼浸水対策・排水施設整備

西宮市では、想定を超えた降雨が年々増えていることから、さまざまな対策を推進している。小中学校の校庭や公園の広場等に雨水をためる「オンサイト貯留施設」を42カ所設置するとともに、公共施設の地下へ一時的に雨水をためる「オフサイト貯留施設」を設置している。また「下水道ビジョン」と称した事業計画を市民向けに示し、家庭用の雨水タンクや浸透升を推奨して設置に対する助成を行っている。

岩沼市でも、浸水対策は莫大な時間と費用を要する継続的な事業である。「流す」だけではなく「ためる」「しみこませる」という対策を市民に協力を求めながら行い、経済的かつ計画的な水害対策を着実に構築していくことが必要である。



茨木市で調査する委員

兵庫県尼崎市「5月21日」

▼企業誘致・雇用対策

尼崎市は、陸・海・空の優れた交通ネットワークがあり、工業系用途地域が市街化区域の36%を占める工業都市で、市内には規模・業種さまざまな企業が拠点を置いている。環境と産業が共生する持続可能なものづくり都市を目指しており、産業団体と連携した「企業立地推進員」を活用して、土地情報と企業情報をスピーディーにマッチングさせた企業誘致を推進している。

岩沼市の企業誘致では、県との連携が重要である。仙台空港周辺の交通の利便性を生かし、既存企業や産業団体と連携して情報収集・

情報発信し「超付加価値創生型産業」を含めた多種多様な企業誘致を行い、少子高齢化時代に備え、財政確保のため若者の働き手が集まる政策が必要である。

大阪府茨木市「5月22日」

▼観光物産振興

茨木市が観光行政への取り組みを本格的に始めたのは昨年度からであり、観光協会をはじめ市民と協働した「観光まちおこし」を推

進しようとしている。来年度には観光に特化した担当部署も設置し、これまでのイベント支援事業の充実や新しい観光コースの整備検討を行っていく方針である。

岩沼市でも、市民が企画するイベントや新しい観光コースづくりなどに行政が積極的に関わり、市民を巻き込んだ新しい観光行政への取り組みが必要である。



市議会だより第125号（平成26年10月号）の表紙の写真説明で「岩沼南小学校」の記載が漏れました。おわびして訂正します。
正しくは 岩沼南小学校の「夏休みニコニコ学習会」でした。